



時事評論家 増田俊男

戦後 70 年と天皇陛下のお言葉

「先の戦争で亡くなったすべての人々を追悼し、その遺族の歩んできた苦難の道をしのびたいと思います」。これは天皇陛下念願のパラオ共和国ご訪問に際してお話になったお言葉である。戦後 70 年に際し、敵も味方も含めて「すべて」の戦争犠牲者を哀悼する天皇は日本の天皇であると同時に世界の天皇になられたのだと感じました。

天皇陛下は日中国交正常化 20 周年（1992 年 10 月 27 日）には中国をご訪問、さらに、2005 年 4 月 25 日にはパラオに勝るとも劣らない激戦地サイパンをご訪問、米国の戦争犠牲者、韓国の犠牲者の慰霊碑に献花し追悼をされています。

20 世紀の戦争は数百万人の犠牲者を出し、敗戦国は言うまでもなく戦勝国さえも多大な経済的損失を蒙り、「全く無意味な戦争」の連続でした。

「こうした戦争を二度と起こしてはならない」という世界の天皇のお言葉は正に 20 世紀の戦争の時代の終わりを告げる歴史的なお言葉であると考えます。

「歴史の終わりに」当たって

では 20 世紀の無意味な戦争の歴史は何故終わったのでしょうか。

私の過去の「小冊子」で述べたように、民主主義の思想とその啓蒙運動は 17 世紀から 18 世紀にかけて英国をはじめ欧州で起きた産業革命による産業の近代的工業化の必要性からでした。人口の 80%以上であった農奴を工場労働者にするには奴隷を人間にする必要があります。「人間は神の下に平等である」ことを被支配階級に啓蒙する必要があります。「人間になって何時か支配者（エリート）になって富裕層になりたい」という気持ちは労働生産性に効果的でした。

しかし経営者（支配階級）と労働者（被支配階級）の所得格差と優越感と劣等感から階級闘争が国内外に引き内戦と対外戦争が絶えず国家体制が度々脅かされました。

では何故無意味な内戦、外戦の戦争の時代が終わったのでしょうか。

それはアメリカの支配階級（エリート）が欧州に先駆けてのエリート又は貴族的特権を放棄したからです。このアメリカの世襲的、伝統的支配階級の特権放棄に基づく民主主義は最早産業革命や時の経済に好都合な民主主義ではなく、人種、宗教、文化、伝統を超えて世界に支持されたのです。最早階級闘争や劣等感による国粹主義などを動機とした戦争が起きなくなったのです。

今後この民主主義思想と民主主義国家体制に勝る思想も体制も有り得ないと言うコンセンサスから「歴史が終わった」という結論が出るのです。

さて私が今執筆中の「小冊子」（Vol.67）で、20 世紀の「無意味な戦争」が終わった今、新たに 21 世紀の「有意義な戦争」が始まったこと、そしてその展開を述べることにしています。

***本日インターネット・セミナーで「世紀の暴落の時期」について述べます。**

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！

1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より 12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は 4～6回になります。詳しいご案内、お申込みについては増田俊男事務所（Tel：03-3955-6686、HP：www.chokugen.com）まで。